

支部だより

珠のつえ

平成26年10月23日

第108号

発行所
 公益社団法人 全国珠算教育連盟
青森県支部
 所在地 三沢市中央町4丁目4-6
 ☎0176 (53) 3662
 支部長 齋藤 隆
 責任者 福士隆行

支部通常総会 三沢市『星野リゾート青森屋』で開催

平成26年度支部定時総会が8月24日(日)、三沢市「星野リゾート青森屋」に於いて開催されました。午後1時開会、全珠連歌を斉唱し、今年度の会員表彰が行われました。本部表彰では、事業優績で岩崎カネ子先生(青森地区)と山田愛子先生(三沢地区)が受賞、検定優績、永年在籍で計13名の方が受賞されました。また、支部表彰では、特別功労賞を齋藤拓哉先生(平成25年度全日本通信珠算競技大会団体日本一・三沢市立上久保小学校)と齋藤美智子先生(平成25年度全日本通信珠算競技大会団体日本一・三沢市立木崎野小学校)が受賞、研修奨励賞、競技奨励賞を計6名の方が受賞されました。続いて、齋藤隆支部長が挨拶し議案の審議に入り、「平成25年度事業報告ならびに収支決算の承認を求める件」について支部長、各執行部長より説明があり承認されました。協議報告事項では、第42回東北七県珠算競技大会の結果報告を能登のり子先生(審査担当)、沢村千晴先生(司会進行担当)関向知寿先生(会場担当)が行いましたが、それぞれの部署で緻密に打ち合わせ、委員が力をあわせ一生懸命頑張った結果の大会成功だったことを実感しました。また、全日本珠算選手権大会(8月8日・京都)では、協力委員として大会の運営に参加した須藤亨仁先生が報告、都道府県対抗競技で本県チームが優勝という嬉しい結果が報告されました。総会終了後、午後3時より珠算指導者講習会を開催。十和田珠算塾々長で副支部長の楠美一郎先生が「進級時の導入問題について」と題し講演、父の代から57年のノウハウを生かした指導法を公開しました。実際にそろばんをはじきながらソフトな語り口でわかりやすく説明、充実した教材を使い、きめこまかな指導を心がけており、受講者にとって大変参考になる講習会となりました。



< 会場の青森屋『天平閣』 >



< 講師の楠美一郎先生 >

総会・講習会後の **懇親会**



↑能登金文先生の後ろに次々集まるカラオケ大会の審査員たち。結果は何点だったのでしょうか…。



↑西北五地区主催『ラムネサイダー早飲み大会』割りばしでビー玉を落とすのに苦戦中…。



↑ニコリ笑顔でハイチーズ♪
おいしいごはん、楽しい余興に大満足!!



↑支部長の歌声につられて、ステージに集まりみんな
で踊り出す♪ ラッセラ～・ラッセラ～…♪

合格 検定試験 **十段合格者**

◆第362回検定試験
 (平成26年7月20日施行)
 【珠算十段位】
 本田 聖奈 (八戸地区)

◆第363回検定試験
 (平成26年9月28日施行)
 【暗算十段位】
 本田 愛奈 (八戸地区)

**H26.11月～H27.1月の
行事予定表**

11月30日(日)
第364回珠算暗算検定

12月13日(土)
むつ地区珠算選手権

12月21日(日)
珠算(4～10級)・
暗算(1～6級)検定

12月28日(日)
～H27.1月4日(日)
支部事務局休み

1月25日(日)
第365回珠算暗算検定

第42回 東北七県珠算競技大会レポート 「パーフェクト・ゲーム」 むつ地区：工藤慎也

平成26年7月29日(火)、第42回東北七県珠算競技大会が十和田市で開催されました。星野リゾート奥入瀬溪流ホテルを舞台に、出場選手283名が熱戦を繰り広げた今大会、青森県は県対抗競技1～3部全制覇。その他個人競技でも多数の青森県選手が入賞し、常勝軍団青森県として上々な結果となりました。その一方で各地区の先生が一丸となり行った大会運営も、これ以上ない素晴らしさでした。それこそ上々の出来であり、選手たちの結果以上に完璧であったと思います。今回のレポートを書くにあたり、私は各部署の部長に今大会の運営はどうであったかを聞いて回りました。総務部長、応接部長、表彰部長、競技部長、会場部長、審査部長、声をそろえて言うのは「とても良かった」の一言。他県の先生に聞いても「すばらしい」、「何でこんなに時間通りに進行できるの」、「とても真似できない」というお言葉をたくさん頂き、褒められすぎて照れました。自分の事でもないのに。



< 今年の東北大会、開会式の様子 >

こんなに上手くいったのは、なぜなのか？それは、完全にマニュアル化された大会運営資料が全委員に配布されていたからです。かなり細分化した作りになっており、その通りに動けば間違いがないのです。その委員たちも、県大会で各部署を長年任されているエキスパート集団。大会進行の仕方をよく分かっているし、さらに今大会は各部署の縦の連携だけでなく、部署間の横の連携も強化され、大会の進行が止まったり、運営に問題が起こる事はほとんどありませんでした。マニュアルと言うとどこか悪いイメージがあり、マニュアル通りにしか出来ない融通がきかない感じがします。でもそんな事はありません。例えば、こんな事がありました。会場はトイレの数が少なく、選手たちに不便をかけていました。普通の観光ホテルにはたくさんのトイレは必要ありませんから、仕方ないことです。大会が昼休みになり、私は会場の一歩近くのトイレに行きました。すると、五戸の根岸先生がトイレの前で通せんぼするのです。「男子トイレも女性に開放したから、男性は上の階のトイレに行ってください」と呼びかけています。これでいくらか混雑が解消できますから、なるほどこれはいい処置だと思いました。てっきり上層部からの指示だと思ったんですが、後で聞いたら本人が勝手にやった事らしい。なんて機転の利いた行動でしょう。もちろんそんな事はマニュアルに書いてありませんから、これは根岸先生の大ファインプレーです。今後、彼のことはトイレの番人とか、トイレの神様などと呼ぶ事にしましょう。というわけで、周到なマニュアルを持ち、様々な事に気が利く青森県大会実行委員は、今大会完璧な運営をしたと言え、今後の各種大会、次の東北大会でも同じようにパーフェクトな運営を続けていくことでしょう。わが県の大会運営は、永遠に不滅です。

全日本珠算選手権大会 都道府県対抗競技 メンバーが青森県知事に優勝報告

8月8日、京都国際会館で行われた26年度全日本珠算選手権大会・都道府県対抗競技で優勝したチームメンバーが8月29日、青森県庁を訪れ三村伸吾知事に優勝を報告しました。訪問したのは、三沢市立上久保小学校5年の松岡有里さん、三沢第一中学校1年の斎藤俊君、三沢商業高校1年の蓬畑実紗さんの3名。工藤寿和本部理事が、面談許可のお礼と大会の主旨を説明したあと、1回戦から接戦を制した決勝戦までの経緯を紹介「都道府県対抗競技での全国優勝は青森県にとって初めての出来事、名誉な事でありうれしく思う。来年もこのメンバーで臨めるので連覇をねらいたい」と述べました。三村知事は「3人が力をあわせ、チームワークで勝ち取った日本で価値がある。これからもチャレンジ、研鑽に励んで欲しい。他の分野でも自分を磨いて、物事に全力を尽くしていく気持ちを忘れずに」とみんなを激励しました。松岡さんは「大会は楽しかった。また頑張ります」斎藤くんは「ここ2年、3位だったので今回優勝できてとてもうれしい」蓬畑さんは「青森県初の優勝に貢献できて良かった」と各々感想を話し、さらなる飛躍を知事に誓いました。



< 知事と一緒に嬉しい記念撮影 >



< 工藤本部理事が
日本一までの経緯を紹介 >



< 大勢のマスコミ関係者の
取材を受ける3人 >



< 『これからもチャレンジし、
研鑽を積んで下さい』と激励 >